

学校名 いの町立伊野南中学校

学校長名 田 村 誠

1 研究テーマ

主幹教諭が機能する組織運営のあり方
～新しい職を設置しての学校改善～

2 研究内容

①学校運営の企画・立案の補佐

・管理職が多忙化の傾向があり、校長の学校経営マネジメントをより一層充実させる。

②「地域アクションプラン」の効果的な事業推進

・本年度から始まる「地域アクションプラン」による学校改善を図る。

③教員の指導力の向上

・主幹教諭が、各校務分掌間の連絡調整を一部行いつつ、主任・主事に一定の責任と権限を持たせ指導力向上に繋げる。

3 新しい職の配置による組織体制

主幹教諭を教頭に次ぐ準管理職と位置付け、週一回定期に行う企画委員会・研究推進委員会・生徒指導委員会にも参加し学校運営に参画する。

4 新しい職の活用状況

教頭や主任・主事の業務が多忙化している現状の中で、校長の学校経営マネジメントをより一層充実させるために、各主要会議への参加を位置付け、学校運営の補佐役を担っている。

また、いろいろな場面で多様かつ複雑な対応が迫られる中、教員の指導力向上を含め、管理職に代わって一定の責任を持たせ対応させている。

5 具体的な取組

各主要会議(企画委員会・研究推進委員会・生徒指導委員会など)への参加を位置付けることで学校運営の補佐役を担わせている。また、必要に応じて主任・主事を「指示」するなど組織間の調整を行っている。

次に、教員の指導力向上に力を注ぎ、若年教員を中心に授業づくり、学級経営、生徒指導等のサポートも行っている。他にも、小中連携・一貫教育を推進するために「地域アクションプラン」を積極的に活用し学力向上をめざしている。

6 研究の成果

主幹教諭としての立場が明確に位置付けされたことで、本人の発言や行動が変わってきた。校内の各会議等においても管理職と各主任・主事との意見交換だけではなく、校長のビジョンを理解した発言やワンクッションおいてのポジティブな意見を発言するなど、ベクトル合わせがスムーズに行えることが多くなってきた。そうしたことから、主任・主事はもちろん、他の教員からも相談を受けることが今年になって多くなってきたようであり本人も喜んでいる。また、相談を受けることの自信から若年教員を中心にアドバイスや指導・助言をする場面も多くなってきた。このことは、管理職が直接ではなく、ワンクッションおいての指導・助言になるので教員にも評判がよい。

次に、「地域アクションプラン」の一環としての小中連携教育推進事業やICT活用推進事業を有効に活用しながら、授業改善や研究授業にも積極的に取り組み、研究主任と密に連絡をとりながら学力向上をめざした取り組みを研究・実践することが定着しつつある。

他にも、本校の生徒数の数年先を見通した「仮称:生徒数減少に伴う校務等見直し検討委員会」を立ち上げ、来年度からのプランも提言した。

7 課題の考察

年度当初は、本校のように小規模校で比較的教員数が少ない場合、力量のある教員をどうしても担任や学年所属など、適材適所に配置を優先的に考えてしまった。しかしながら、若手を育てる視点に立ち長いスパンで考えると、本校に主幹教諭が配置されたことにより、準管理職的な立場であることから、他の教職員が管理職にワンクッションおいていろいろと相談できることが、よりよい組織づくりや職場の雰囲気づくりにも繋がっていると考えられる。